

【 JAPAN CUP 2017 】

試合結果報告

会場:	熊本県・ウイングまつばせ
試合日:	平成 29 年 8 月 3 日 (木)

JPN(日本代表)	VS	ANG(アンゴラ代表)
13	前半	13
16	後半	15
0	第1延長	0
0	第2延長	0
29	合計	28

戦評

試合開始早々、アンゴラ代表は、18番のスピードのあるカットインで2点連取する。対する日本も7番の速攻から4番のカットイン、ミドルシュートで3点連取し、一進一退の攻防が続く。10分過ぎ、日本は、高めのDFから6-ODFにシフトチェンジし、ポストをフリーにさせないようにすると、アンゴラの攻撃が18番の個人技に限られ、守りのリズムが出てきて、GKもセーブを連発する。

その間に、日本は、セット攻撃からステップシュート、カットイン、ミドルシュートとバランス良く攻撃し、7-6とリードする。その後は、アンゴラは、18番、11番の個人技を中心に得点を重ね、日本も7番の速攻や7人攻撃を仕掛け、相手の退場を誘うなど、互角の展開で前半を13-13の同点で終了した。

開始直後から、アンゴラのラフプレーが続き、日本代表は7MTを3本続けて41番が決める。しかしアンゴラも18番のミドルシュートや17番のロングシュート、カットインと粘り強く攻め続けた。その後は、12番GKが10番のポストシュートを連続でセーブし、流れは日本に傾きかけたが、アンゴラも、日本DFのスペースを10番のポストを利用して連続得点、18分23-22と日本のリード。

そこから日本は7人攻撃を仕掛けるも相手にカットされ同点とされる。だが、その後のセット、速攻と28番がポストから得点し2点をリード。アンゴラもノーマークを作るのだがシュートミス。17番がカットインからミドルシュートを決めるも、その後の速攻に対してファール、退場をする。

残り時間2分で、29-26と3点をリードし、最後は18番のミドルシュートなどに追い上げられるも、日本は有効に時間を使い逃げ切った。互いに持ち味を出し切った見応えのあるゲームであった。

報告記入者 :

浦塘 勝彦